

助動詞 100 連発

氏名（

）

問 枠囲みの助動詞の意味を答えなさい。

《ステップ1》 1番から36番は、助動詞が終止形で出てくる例文を集めました。

- 1 京より下りし時、子なかりき。
- 2 今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。
- 3 見渡せば花も紅葉もなかりけり。
- 4 秋田、なよ竹のかぐや姫とつけつ。
- 5 黒き雲にはかに出て来ぬ。
- 6 風吹きぬべし。
- 7 三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。
- 8 五十の春を迎へて、家を出て世を背けり。
- 9 風吹けば、え出で立たず。
- 10 仏の御飾り、花机のおほひなどまで、まことの極樂思ひやらる。
- 11 寝たる足を狐に食はる。
- 12 かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき。
- 13 冬はいかなる所にか住まる。
- 14 妻のおうな 嫗おに預けて養はす。
- 15 つれづれわぶる人は、いかなる心ならむ。
- 16 頼朝に会うて、もの一言言はむと思ふぞ。
- 17 「忍びては、参り給ひなむや。」
- 18 法師は人に疎くてありなむ。

- 19 思はむ子を法師になしたらむこそ、心ぐるしけれ。
- 20 思はむ子を法師になしたらむこそ、心ぐるしけれ。
- 21 深き志はこの海にも劣らざるべし。
- 22 自今以後も汝なんぢらよくよく心得べし。
- 23 重き病なれば、え出づまじ。
- 24 今日人は人もやあらじとて入りぬ。
- 25 月ばかりおもしろき物はあらじ。
- 26 風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君が一人越ゆらむ
- 27 ひさかたの光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ
- 28 かぐや姫の、皮衣を見ていはく、「うるはしき皮なるめり。」
- 29 野辺見ればなでしこの花咲きにけり我が待つ秋は近づくらしも
- 30 鏡に色あらましかば、映らざらまし。
- 31 秋の野に人まつ虫の声すなり
- 32 蝶は捕らふれば(熱が出る病気)わらは病せさすなり。
- 33 おのが身はこの国の人にもあらず、月の都の人なり。
- 34 忠盛、備前の守たりし時、
- 35 御主へ返したし。
- 36 人の子産みたるに、男女とく聞かまほし。

〈ステップ2〉 37番から74番は、助動詞が終止形以外でも出てくる例文を集めました。

- 37 唐衣着つつなれに^しつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ
- 38 昨日こそ早苗とり^{しか}いつの間に稲葉そよぎて秋風の吹く
- 39 親のあはすれども、聞かでないむあり^{ける}。
- 40 大人になり^にければ、男も女も恥ぢ交はしてありけれど、
- 41 大人になり^にければ、男も女も恥ぢ交はしてありけれど、
- 42 このこと、試み^てむや。
- 43 道知れ^る人もなくて、惑ひ行きけり。
- 44 事を知り、世を知れ^{れば}、願はず、わしらず。
- 45 この川、淵瀬川にあら^{ねば}、淵瀬さらに変はらざりけり。
- 46 この川、淵瀬川にあら^{ねば}、淵瀬さらに変はら^{ざり}けり。
- 47 頼みたる方のことはたがひて、思ひよら^ぬ道ばかりかなひぬ。
- 48 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろか^れぬる
- 49 胸のみふたがりて、物なども見入ら^れず。
- 50 折々のこと思ひ出でたまふに、よよと泣か^れ給ふ。
- 51 姑に思は^る嫁の君。
- 52 「この翁丸打ち調^{てう}じて犬島へつかはせば」と仰せ^らる^{れば}、
- 53 なきことによりてかく罪せ^{られ}給ふをかくおぼし嘆きて、
- 54 変はりゆくかたちのありさま目もあて^{られ}ぬこと多かり。

- 55 住み慣れし古里限りなく思ひ出で^{らる}。
- 56 人々に物語など読ま^せて聞き給ふ。
- 57 君はあの松原へ入ら^せ給へ。
- 58 夜うちふくるほどに女房にも歌詠ま^せ給ふ。
- 59 帝、感に堪へ^{させ}給はず。
- 60 今こそ別れ^め。いざさらば。
- 61 かく人迎へ給へりと聞く人は、誰なら^む。
- 62 この月の十五日に、かの元の国より、迎へに人々まうで来^むず。
- 63 羽なければ、空をも飛ぶ^べからず。
- 64 返りごといかがす^べからむ。
- 65 この一矢に定む^べしと思へ。
- 66 冬枯れの景色こそ、秋にはをさをさ劣る^まじけれ。
- 67 み吉野の山の白雪積もるらしふるさと寒くなりまさる^{なり}。
- 68 思ひつつ寝ればや人の見えつら^らむ夢と知りせば覚めざらましを
- 69 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざら^{まし}を
- 70 これほどの詩を作りたら^{まし}かば、名をあげてまし。
- 71 少しおぼえたる所あれば、子な^{めり}と見たまふ。
- 72 笛をいとをかしく吹き澄まして、過ぎぬ^{なり}。
- 73 男もす^{なる}日記といふものを、女もしてみむとてするなり。
- 74 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてする^{なり}。

〈ステップ3〉

75番以降は、「識別問題」で出てくるものを集めました。

ただし、助動詞でないものも含まれるので、その場合は×を付けなさい。

「に」の識別

- 75 おのが身はこの国の人にしもあらず。
- 76 幼き人は寝入り給ひにけり。
- 77 琴の音のほのかに聞こゆる。
- 78 丹波に出雲といふ所あり。
- 79 抜かんとするに、おほかた抜かれず。
- 80 三十六計逃ぐるに及くはなし。
- 81 この頃、物怪ものけに困じけるにや。

「る」「れ」の識別

- 82 今日は都のみ思ひ遣らる。
- 83 み吉野の山べに咲ける桜花
- 84 秋風に吹かれて赤し鳥の脚
- 85 大将、福原へこそ帰られけれ。
- 86 抜かむとするに、おほかた抜かれず。

「ぬ」「ね」の識別

- 87 眼に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、
88 山里は冬ぞ寂しきまさりける人目も草もかれぬと思へば
89 昔の直衣姿こそ忘れぬ。
90 具して率ておはしぬ。

「なり」の識別

- 91 春になり、花が咲く。
92 中宮、いとあてなり。
93 夢にも人に会はぬなり。
94 夕されば野辺の秋風身にしてみて鶉鳴くなり深草の里
95 物語の多くあんなり。いかで見ばや。

「し」の識別

- 96 例のことどもしける。
97 会はでやみにし憂さを思ふ。
98 おのが身はこの国の人にしもあらず。

「けれ」の識別

- 99 かひなく立たむ名こそ惜しけれ。
100 かひなく立たむ名こそ惜しかりけれ。

【解答】

1 過去
2 過去
3 詠嘆
4 完了
5 完了
6 強意 (確述)
7 存続
8 完了
9 打消
10 自発
11 受身
12 尊敬
13 可能
14 使役
15 推量
16 意志
17 勧誘
18 適当

19 婉曲
20 仮定
21 意志 (推量・当然)
22 命令
23 不可能
24 打消推量
25 打消推量
26 現在推量
27 現在の原因推量
28 推定
29 推定
30 反実仮想
31 推定
32 伝聞
33 断定
34 断定
35 願望
36 願望

37 過去
38 過去
39 過去
40 過去
41 完了
42 強意 (確述)
43 存続
44 存続
45 打消
46 打消
47 打消
48 自発
49 可能
50 自発
51 受身
52 尊敬
53 受身
54 可能

55 自発
56 使役
57 尊敬
58 使役
59 尊敬
60 意志
61 推量
62 推量
63 可能
64 適当
65 意志 (当然)
66 打消推量
67 推定
68 現在の原因推量
69 反実仮想
70 反実仮想
71 推定
72 推定
73 伝聞
74 断定

75 断定	76 完了	77 × (形容動詞の活用語尾)	78 × (格助詞)	79 × (接続助詞)	80 × (格助詞)	81 断定	82 自発	83 存続	84 受身	85 尊敬	86 可能	87 打消	88 完了	89 打消	90 完了	91 × (動詞)	92 × (形容動詞の活用語尾)	93 断定	94 推定	95 伝聞	96 × (動詞)	97 過去	98 × (副助詞)	99 × (形容動詞の活用語尾)	100 過去
-------	-------	------------------	------------	-------------	------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----------	------------------	-------	-------	-------	-----------	-------	------------	------------------	--------

〈ステップ3 (識別) 簡単な補足〉

「に」の識別

- 75 「に」あり」の「に」は断定「なり」のⓀ
- 76 「にき」「にけり」「にたり」の「に」は完了「ぬ」のⓀ
- 77 直前に「とても」を挿入できるなら形容動詞
- 78 格助詞の「に」の訳は「くに」
- 79 接続助詞の「に」の訳は「くので」「くが」「くと」のいずれか
- 80 「く逃げる(こと)」「にくく」と訳せるので格助詞
- 81 「に」係助詞。「の下に「あらむ」が省略されている。「にくあり」の形になるので断定。

「る」・「れ」の識別

- 「る・れ」の直前を伸ばして、「エー」となったら存続・完了の助動詞「り」、
「アー」となったら自発・可能・受身・尊敬の助動詞「る」
- 82 直前が知覚動詞なら自発
- 83 「くしている」と訳せるので、完了ではなく存続にする
- 84 「くに」の文脈なら受身
- 85 主語が貴人なら尊敬
- 86 直後が打消の時、可能になることが多い

「ぬ」・「な」の識別

- 87 下が名詞なので、連体形で「ぬ」となっている。打消

- 88 下が引用の「と」なので、終止形で「ぬ」となっている。完了
89 係助詞「こそ」と連動して、已然形で「ね」となっている。打消
90 文全体が命令文になっていて、命令形で「ね」となっている。完了

「なり」の識別

- 91 そこで文を中断したとき、「なる」と訳せるなら動詞
92 直前に「とても」を挿入できるなら形容動詞
93 直前の語が名詞や連体形なら、基本的に断定
94 直前の語が終止形なら、伝聞か推定。音声に関する語（ここでは「鶉鳴く」）があれば推定、なければ伝聞
95 直前が音便化していれば、伝聞か推定。断定ではない

「し」の識別

- 96 そこで文を中断したとき、「する」と訳せるなら動詞
97 上の語が連用形（ここでは完了「ぬ」連用形）なら過去の助動詞
98 その「し」を消しても文意が通るなら副助詞

「けれ」の識別

- 99 を過去の助動詞「けり」で取ると、「けり」は連用形接続なのに、直前の「惜し」が終止形になって
いるという矛盾が生じてしまう。「惜しけれ」で一語
100 は過去の助動詞としてもそのような問題は生じない

へおまけへ あやふやな人は、文法書を見ながら以下の表を埋めてください。
その上で、「助動詞100連発」に挑戦しなおしましょう。

● 次の助動詞の活用表を完成せよ。

しむ	さす	す	らる	る	ず	り	たり	ぬ	つ	けり	き
										○	○
					○						
										○	○

● 次の推量グループの助動詞の意味を、後の語群のうちから（ ）の数だけ選んで書け。同じものを何度用いても良い。

まし (1)	らし (1)	めり (2)	なり (2)	けむ (2)	らむ (2)	じ (2)	まじ (6)	べし (6)	む (6)

語群

- 意志
- 打消意志
- 打消推量
- 打消当然
- 婉曲
- 過去推量
- 過去の原因推量
- 伝聞
- 当然
- 反実仮想
- 不可能
- 不適當
- 命令
- 仮定
- 可能
- 勧誘
- 禁止
- 現在の推量
- 現在の原因推量
- 推定
- 推量
- 適當